

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 20 年 3 月－輸出の減少幅を輸入の減少幅が上回り、1-3 月期の外需寄与度は前期比 0.2%程度のプラスに

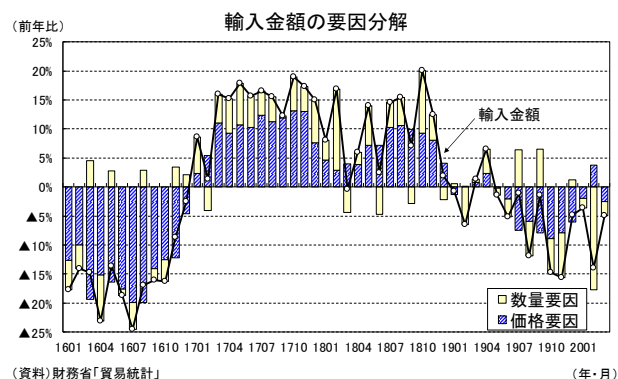
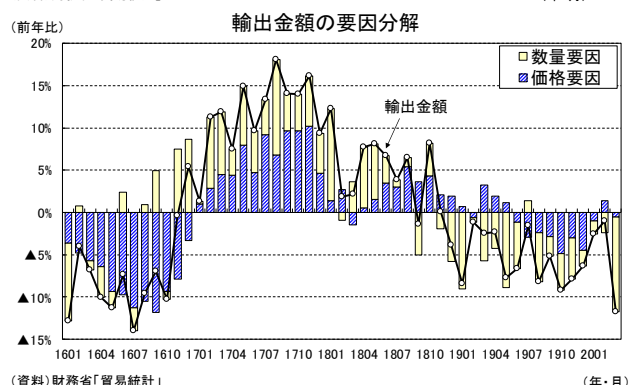
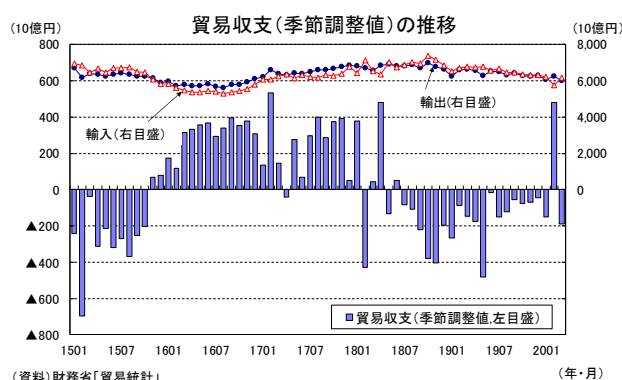
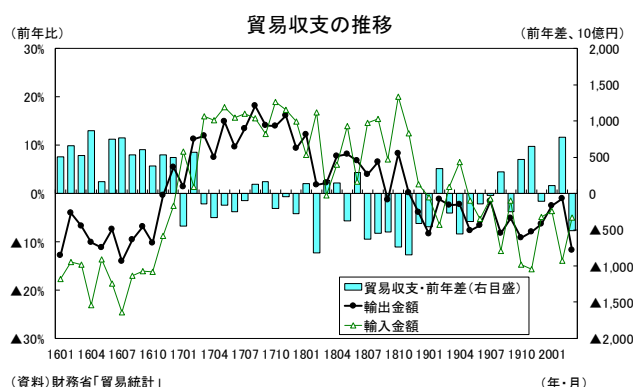
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の減少幅が拡大

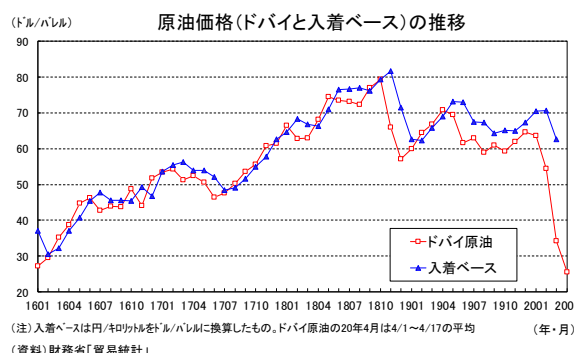
財務省が 4 月 20 日に公表した貿易統計によると、20 年 3 月の貿易収支は 49 億円の黒字となり、事前の市場予想（QUICK 集計：4,200 億円、当社予想は 2,204 億円）を下回る結果となった。輸出入ともに減少したが、輸出の減少幅（前年比▲11.7%）が、輸入の減少幅（同▲5.0%）を上回ったため、貿易収支は前年に比べ▲5,123 億円の悪化となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲11.2%（2 月：同▲2.4%）、輸出価格が前年比▲0.6%（2 月：同 1.4%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲2.5%（2 月：同▲17.3%）、輸入価格が前年比▲2.5%（2 月：同 4.1%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲1,900 億円（2 月：4,822 億円の黒字）と 2 ヶ月ぶりの赤字となった。輸出が前月比▲4.1%の減少となる一方、輸入が前月比 7.2%の増加となった。

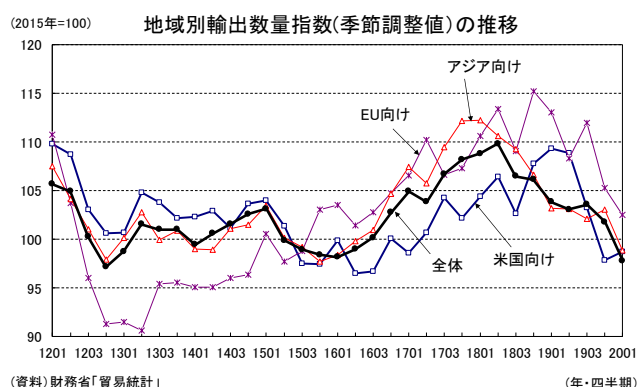
3月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル＝62.6ドル（当研究所による試算値）となり、2月の70.7ドルから大幅に低下した。足もとの原油価格（ドバイ）は20ドル台まで大きく下落しており、通関ベースの原油価格は4月には40ドル程度、5月には30ドル台へと大きく低下することが見込まれる。



2. 4月以降は輸出入ともに大きく落ち込む可能性

20年3月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲15.9%（2月：同▲4.5%）、EU向けが前年比▲9.1%（2月：同▲9.7%）、アジア向けが前年比▲10.5%（2月：同▲0.9%）、うち中国向けが前年比▲10.4%（2月：同▲2.6%）となった。

20年1-3月期の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前期比0.9%（10-12月期：同▲5.2%）、EU向けが前期比▲2.7%（10-12月期：同▲6.0%）、アジア向けが前期比▲4.1%（10-12月期：同1.0%）、中国向けが前期比▲7.7%（10-12月期：同1.9%）、全体では前期比▲3.9%（10-12月期：同▲1.7%）となった。19年10-12月期は欧米向けが低迷する一方、IT関連品目の持ち直しからアジア向けは下げ止まりつつあったが、20年1-3月期は米国向けが若干持ち直したものの、EU向け、アジア向けが大きく落ち込んだ。



一方、20年1-3月期の輸入数量指数（当研究所による季節調整値）は、国内需要の低迷、中国をはじめとした工場の操業停止の影響から、前期比▲6.9%（10-12月期：同▲2.0%）と輸出を上回る落ち込みとなった。

4月以降は、工場の再稼働を受けて中国向けは持ち直す可能性があるものの、都市封鎖が行われている欧米向けを中心に輸出入ともに大きく落ち込むことが予想される。

3. 1-3月期の外需寄与度は前期比0.2%程度のプラスに

3月までの貿易統計と2月までの国際収支統計の結果を踏まえて、20年1-3月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比▲4%程度の減少、輸入が前期比▲5%程度の減少となった。輸出入ともに減少したが、海外工場の生産停止の影響で輸入が輸出以上に大きく減少したため、1-3月期の外需寄与度は前期比0.2%（10-12月期：同0.5%）と2四半期連続のプラスとなることが予想される。

当研究所では、鉱工業生産、建築着工統計等の結果を受けて、4/30のweeklyエコノミストレターで20年1-3月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が2四半期連続で成長率を押し上げるものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛要請を受けて、民間消費をはじめとした国内需要が大きく落ち込むことから、2四半期連続のマイナス成長を予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。